

司法省日誌

十五

明治八年二月三



日本史籍協會編

司法省日誌

明治初期各省日誌集成

十五

明治八年二・三月

東京大学出版会

しほうにっし
司 法 省 日 誌 十 五

明治初期各省日誌集成 第一期

昭和五十九年十一月十五日覆刻

編 者 日本史籍協会

代表者 森谷秀亮

東京都三鷹市大沢二丁目十五番十六号

発行者 財団法人 東京大学出版会

代表者 田中英夫

一一三 東京都文京区本郷七丁目三番一号
振替東京六一五九九六四

電話(八一)八八一四

印刷・株式会社 平文社

本文用紙・王子製紙株式会社

クロス・望月株式会社

製函・株式会社 光陽紙器製作所

製本・矢嶋製本株式会社

39152

ISBN 4-13-093915-7

資料は国立公文書館所蔵本による。

日本史籍協会編

司法省日誌

全二〇卷

A 5 判

平均四六〇頁

各価六〇〇〇円

明治初期各省日誌集成第一期

卷 年 代 刊行月

1 明治六年一・二月 58年9月

2 明治六年七・八月 10月

3 明治六年八・九月 11月

4 明治七年一月 12月

5 明治七年二月 59年1月

6 明治七年三・四月 2月

7 明治七年五月 3月

8 明治七年六月 4月

9 明治七年七・八月 5月

10 明治七年九・十月 6月

卷 年 代 刊行月

11 明治七年二月 59年7月

12 明治七年三月 8月

13 明治七年索引 9月

14 明治八年一月 10月

15 明治八年二・三月 11月

16 明治八年四・五月 12月

17 明治八年六・七月 60年1月

18 明治八年八・九月 2月

19 明治九年一・二月 3月

20 明治九年三・四月 4月

司法省日誌

十五

目次

明治八年二月

第十八號 (二月二日)	一
第十九號 (二月五日)	二
第二十號 (二月八日)	四
第二十一號 (二月九日)	六
第二十二號 (二月十二日)	八
第二十三號 (二月十三日)	一〇
第二十四號 (二月十五日)	一二
第二十五號 (二月十八日)	一四
第二十六號 (二月二十日)	一六
第二十七號 (二月二十三日)	一八
第二十八號 (二月二十四日)	二〇
第二十九號 (二月二十四日)	二二
第三十號 (二月二十七日)	二四
第三十一號 (二月二十八日)	二六

明治八年三月

第三十二號 (三月二日)	二八
第三十三號 (三月四日)	三〇
第三十四號 (三月四日)	三二

第三十五號 (三月七日)	三四
第三十六號 (三月八日)	三六
第三十七號 (三月十日)	三八
第三十八號 (三月十日)	四〇
第三十九號 (三月十二日)	四二
第四十號 (三月十四日)	四四
第四十一號 (三月十七日)	四六
第四十二號 (三月十八日)	四八
第四十三號 (三月二十日)	五〇
第四十四號 (三月二十二日)	五二
第四十五號 (三月二十三日)	五四
第四十六號 (三月二十五日)	五六
第四十七號 (三月二十七日)	五八
第四十八號 (三月二十七日)	六〇
第四十九號 (三月二十七日)	六二
第五十號 (三月二十八日)	六四
第五十一號 (三月三十日)	六六

司法省日誌明治八年第十八號

○二月二日

〔山形縣伺〕八年一月四日

人民財産ノ受授并交際上相用候諸証書帳簿類ハ印紙貼用ノ上實印ヲ以調印可致御規則ニ候處明治六年七月五日太政官第二百三十九號御布告但書ノ趣ト証券印稅舊御規則ノ趣意ト相抵觸スルノ旨ヲ以滋賀縣ヨリ御省ヘ相伺候處明治七年六月十九日商法上ノ證書ニシテ商用印ヲ用フルキハ固ヨリ其商用印ヲ以テ消印スヘキ旨御指令七年第二百三十九號十六丁見合セ相成候ニ付テハ同年九月一日ヨリ印稅御規則御更正ニ相成候ト雖モ前書太政官第二百三

十九號御布告ニ準據諸証書帳簿トモ全ク商法上ニ關涉
ノ分ハ商用印店判等ニテ調印受授致シ候儀ト相心得可
然哉右奉伺候也

指令

伺ノ通

〔乙第十號布達〕

讃岐國本山寺村平民伊勢吉

長男

淺吉

同國岡田村産

喜助

右之者共儀一昨六年十月中高知縣管下衣笠村戸梶村次

方へ忍入同人ヲ殺害致シ逃亡候條各地方

以下例文人
相書畧之

〔司法省裁判所言渡〕

原告東京深川佐賀町廻船間
屋石川佐兵衛陸前國石之卷
日野太惣右衛門代言人東京
府士族 仁 杉 英
被告東京小網町荷物積間屋
宇 田 彌兵衛
上野西黒門町福岡武次郎方
寄留大坂府管下

井 上 深 造

其方共訴訟原告ニ於テハ最初廻漕船雇入條約ヲ結ビタ

ル節武次郎喜助ヲ約定書記名ノ本人ト誤認シ後日ニ至
リ全ク本人ニ非サリシヲ承知致ト雖モ前書兩人トモ平
生本人ノ家業ニ關係アル者ナレハ即チ本人ノ違約セシ
モ同様ナリトノ趣ヲ以テ記名主深造彌兵衛ヨリ違約ノ
償金請取度旨申立ト雖モ違約セシモノハ武次郎喜助ニ
シテ深造彌兵衛ノ知ル處ニ非ス且武次郎喜助ハ平生何
等ノ權利ヲ與ヘサレタルヤ將同人共ノ所業ハ深造彌兵
衛ニ責任アリト初ヨリ信用セシニ非ル事ハ結約ノ節本
人ト心得タリトノ申立ニ因テ分明ナリ右本人ト心得タ
ルハ全自己ノ誤認ナルヲ之ヲ閣キ他人ノ義務ヲ督促ス
ル條理無之條原告申立ノ趣採用難相成候事

但シ訴訟入費ハ規則ノ通原告人ヨリ償却可致事

○二月三日

○

本年一月二十五日上請スル東京下谷豊住町井上茂吉以下斷刑伺書本日裁下アリ

〔磐前縣伺〕七年十二月十七日

磐城國行方郡小島田村石井市三郎儀別紙罪案之零ノ通ニ

付圖毆律毆傷妻妾條ニ依リ妻ト見倣シ候ヘハ懲役終身

妾ト見倣セハ五年又雇人ト見倣候得ハ懲役十年ニ相當

リ決シ兼候ニ付テハ輕キニ依リ妾ヲ以テ論シ可然哉此

段奉伺候也

指令

改定律例第二百二十一條雇人家長ノ教令ニ違犯スルニ
督責シテ邂逅ニ死ニ致スニ擬シ

懲役七十日

石井市三郎

該犯ノケサヲ容ル、初メ洗濯手傳ト云ヲ以テ後ニ
妻ト成スノ念慮アリト雖モ未タ公然其儀ヲ成スニ
非ルヲ以テ本議ノ如シ

○

高知縣ヨリ

七年十月

讚岐國那珂郡櫛梨村平民森長兵衛鶴足

郡造田村平民久四郎伴慳地太平愛媛縣ヨリ

同年十月

伊豫

國無籍政吉懲役終身ノ囚大面勇作東京裁判所ヨリ

同年十二月

月同所下谷商井上茂吉長崎裁判所ヨリ月同懲役終身ノ囚

助太郎同永野喜市同安枝長平熊谷裁判所ヨリ月同上野國

勢多郡系井村農岩五郎養子常木喜之助枋木裁判所ヨリ

同上野國邑樂郡館林平民亡初五郎女タイ茨城裁判所ヨリ

月同常陸國茨城郡奥谷村農田口市兵衛下總國海上郡綱

戸村農太右衛門倅鎌形常七匝瑳郡太田村飯島三右衛門

山梨裁判所ヨリ月同甲斐國山梨郡小屋敷村野守杉本又吉

神奈川裁判所ヨリ月同武藏國多摩郡駒井村農伊庭豐吉長

野縣ヨリ月同信濃國安曇郡熊倉村農三郎右衛門長男曾根

原嘉市大分縣ヨリ月同懲役終身ノ囚河野德次福岡縣ヨリ

同筑前國志摩郡小金丸村農一法師彌七新瀉縣ヨリ同越

後國頸城郡狸平村農元右衛門長男今井友太郎廣島縣ヨリ

リ同備後國三谿郡仁賀村農山添源兵衛同縣ヨリ八月一年懲

役終身ノ囚田中才助大坂裁判所ヨリ同同南大組日本橋

筋五丁目脫籍山本岩吉長野縣ヨリ同信濃國佐久郡小諸

本町商皆川辰太郎等各處斷伺ニ長兵衛ハ寶貨ヲ偽造シ

已ニ行使スルノ首又吉ハ持兇器強盜人ヲ殺ス者喜之助

源兵衛ハ火ヲ放テ故ヲニ民舍ヲ燒ク者政吉ハ罪ヲ犯シ

逃走シ追捕ヲ拒キ捕吏ヲ殺スト云ニ擬シ茂吉外四名ハ

持兇器強盜財ヲ得ル者ニ付十名共皆斬罪タイハ同上財

ヲ得サル者助太郎喜市長平勇吉德次ハ懲役終身ノ囚逃

走スル者ニ付六名共皆絞罪太平ハ長兵衛ノ從嘉市ハ竊盜三百圓以上岩吉ハ同上三犯五十圓以上彌七ハ懲役十年ノ囚限内逃走シ外ニ在テ竊盜四犯財ヲ得ル者日ノ棒鎖上辰太郎ハ罪人拒捕條ニ擬シ絞ノ處例第二條ニ照シ五名共皆懲役終身友太郎ハ例第一百七十六條ニ依リ懲役終身ノ處其情狀ヲ酌量シ減一等才助ハ例第三百四條ニ依リ本罪ニ一等ヲ減シ各懲役十年等ノ指令アリ大坂縣裁判所各處置伺アレトモ懲役八十日以下ノ指令ニ付畧之

〔伺書〕

七年十二月廿八日

證券印稅規則第五則中へ追加ノ儀先般相伺候ニ付第三百七十七號ヲ以御布告相成候所右ハ人民習慣ノ爲メ施行

期限ノ猶豫ヲ與ヘラレ候様致度依之別紙御布告案之署相添此段更ニ相伺候也

御指令

伺ノ通第十一號ヲ以テ布告候事

○二月四日

〔東京裁判所伺〕七年十月二十八日

東京麻布坂下町平民弁藏二男懲役十年ノ囚加藤杉藏儀別紙罪案之署ノ通ニ付政定律例第百九十二條ニ依リ過失傷取贖例ニ照シ取贖セシムヘキ處該犯無力ニシテ贖フ能ハサル者ニヨリ律例第三十二條ニ照シ處分スヘキ歟

果シテ然ラハ現今懲役十年ノ囚ニ付右役限ハ延期シ贖金追徴スルヲ先キニシ其役限滿ルヲ待テ原犯ノ役ニ服スヘキ歟然シ素ヨリ傷者ト雖モ懲役人ニシテ其醫藥タルモ官費ニ係ル者ニヨリ該犯資力ナケレハ其罪ヲ免シ止タ原犯ヲ使役シ可然哉奉伺候也

指令

懲役人一時瘋癲ヲ發シテ同囚ヲ傷スル者過失傷取贖例ニ照シ取贖セシム可キ處無力ニシテ贖フヲ能ハサレハ官ニ領置スル役過ノ雇錢ヲ贖金ノ半ニ充テ給與ス仍ホ不足スル時ハ懲役滿期ノ後例第三十二條ニ依テ處分ス可シ